

ソレ！へんてこな日本語です。



心がけたこと①

- 書店流通であることや、読者のターゲット層等をふまえて、教材よりも読みやすく、わかりやすい書籍となるよう、著者と何度も相談し合って原稿を固めた。

メインページ例



煮詰まる

イラストと文章のマッチを大切に

正 「彼の行為は政治的な信念に基づく確信犯だ」

煮物はぐつぐつと火にかけて、煮詰まったらできあがり。おいしい一品の完成です。議論も同じで、煮詰まったらよい結論ができあがるのです。

△ 考えが出尽くして結論を出す段階になる。
△ いい考えが浮かばず、結論が出ない状態になる。

というのが本来の意味なのですが、「これ以上何も考えられない！ 行き詰まった！」というときに使われることが多くなっているようです。国語辞典にも、考えが行き詰まるという意味が書かれているものもあり、次第に認められてきた使い方だとわかります。

ただし！ 年齢が上がるにつれ、本来の「結論が出る」という意味で使う人が多くなります。うつかり「煮詰まってきました」なんて言ったら、上司は「もうすぐ結論が出るんだな」と思ってしまうかも！ 相手の様子を見てうまく使いましょう。

正 「議論が煮詰まってきたので、そろそろ結論をまとめよう」

- 内外のスタッフとともに、校正やファクトの確認をおこない、誤った記述がないよう心がけた。

メインページ例

正確さ、分かりやすさを重視した文章

確信犯 (かくしんはん)

○ 正しいと信じている犯罪。
△ 悪いとわかっていてすること。

足を洗う

○ 悪いことをやめる。
△ 仕事を辞める。

正 「彼らの行為は政治的な信念に基づく確信犯だ」

もともと「確信犯」とは、こうすることが正しいと信じている犯罪のことを言います。なのでAさんの言い方だと、「この会社に盗みに入るのはいずれ」と思った泥棒に入られた、という意味になります。しかしこの言葉、文化庁の調査によると、7割の人が「悪いことだとわかっていてする行為」のことだと考えているようです。現在では国語辞典などにも、「俗に」という断り書きをした上で、この意味が記載されています。本来とは違った意味が人々の間で定着し、辞書にまで載るようになった代表の言葉、それが「確信犯」です。

正 「泥棒から足を洗って、真面目に働く」

久しぶりに同窓会に出たら、昔、やんちゃだった男子が、笑顔の爽やかな営業マンになっていた、なんてことはありませんか。このように、悪いことをやめて真面目な生活を送ることを「足を洗う」と言います。

やっていたことをやめる、という言葉のイメージからか、最近では、職業を辞めるときに「足を洗う」を使う人もいます。ちょうど、Bさんのような使い方ですね。国語辞典によつては、職業を辞めるという意味を認めているものもあります。これも、新しい言葉の使い方が定着してきたためでしょう。

誤

A 「会社にいった泥棒、確信犯だったらしいね」
B 「えっ、うちの会社、何か悪いことしてた？」
A 「えっ、会社は何もしてないよ！」

A 「大学のC先輩、喫茶店を開いたって知ってた？」
B 「うん。サラリーマン生活から足を洗ったって？」
A 「……いったいどんな業種に勤めてたの？」

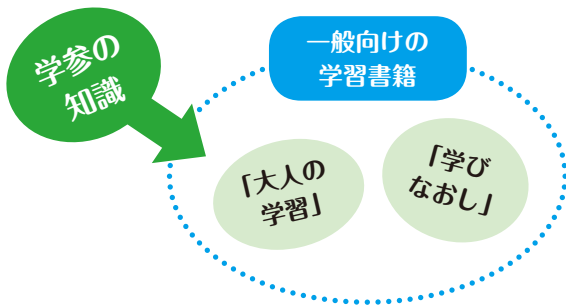


心がけたこと②

- イラストレーターと著者のそれぞれの持ち味をふまえ、紙面全体の雰囲気や崩れないよう、両者の間に立って調整を行った。

エディットの強み

- 教科専門の知識があるので、「学び直し本」や「大人の学習本」にも、正確な知識を持って対応が可能。



引け目

- 自分が劣っているという思い。
- ×相手に借りがあること。

- 記**
- A 「どうしたの？ 彼女に会いたくないなんて」
 - B 「お金差借りっぱなしで引け目があるんだ……」
 - A 「コンプレックスになるくらいなら返しなよ」

「引け目」は悪いことをしたという気持ちとは別物です。気が引けること、自分に自信がなくてホドオドすること、それが「引け目」です。

Bさんのように、相手に負担をかけて申し訳なく思っている場合は、「負い目」が正解です。

優秀な人が集まっているところや大きい舞台に立つと、自分が場違いな気がして、縮こまってしまうもの。しかし、引け目を感じる場合は、自分のコンプレックスを見直し、成長するきっかけになるところでもあります。

正 「優秀な先輩が多くて、引け目を感じる」

しめやか

- 気分が沈んでいく様子。
- ×重々しく立派な様子。

- 記**
- A 「お父さん、いつまで泣いてるの！」
 - B 「今日の式、しめやかだったなあ」
 - A 「娘の結婚式にはかなこと言わないでよ、もっ」

お母様はお怒りの様子。それもそうでしょう。

「しめやか」は、気分が沈んでいく様子を表し、お葬式などに使われます。家から娘がいなくなつて、寂しくてたまらないのかもしれませんが、結婚式のようなおめでたい場に「しめやか」はいただけません。

友人代表として結婚式のスピーチを頼まれた場合には、悲しみを感させる言葉は使わないようにしましょう。

格式のある立派な式だ、と言いたいのであれば「おごそか」がぴったりです。

正 「葬儀がしめやかに執り行われる」

当たり年

- (いいことが)何度もある年。
- ×(悪いことが)何度もある年。

- 記**
- A 「今年は台風の当たり年ですね」
 - B 「？ 台風で、いいことでも？」
 - A 「いえ、台風の被害の当たり年ですよ」

期待せずに引たくじでも、当たるとちよつとうれしい——「当たり」は幸運を感じさせる言葉です。

「当たり年」の「当たり」も、幸運が続くという意味があります。悪いことには使いません。

人にとっての「当たり年」は仕事もプライベートもいいことばかりの一年のこと。ミカンの「当たり年」なら収穫量が多い年です。そしてワインの「当たり年」はブドウの質がよく、美味しいワインができた年。

どの「当たり年」にも笑顔があふれています。

正 「今年はサンマの当たり年だった」

忌み言葉



スルメのことをアタリメつて言いわね。食べたことない？ まあ、いいわ。

スルメの「スル」はお金を失うという意味があつて縁起が悪いから避けてるのよ。これが「忌み言葉」。果物のナシだつて、「有りの実」に言いかえるときもあるの。ものの名前を変えちゃうなんて、縁起は最強ね。

そうそう、冠婚葬祭では、忌み言葉はもちろん、「重ね重ね」「再度」のように、何度もあることを表す言葉も使っちゃダメよ。これらは「重ね言葉」といつて、一度だけにしておきたい場では口にしない約束なの。「ますます」「いよいよ」なんかは、いつも使っている言葉だから注意してね。

結婚式では「切る」「割る」もタブーよ。